

# ようおいでなもし!



私たち、えひめ新歌人がお迎えます

第十一回  
**四国近県集會** 松山  
 56名突破  
**過去最高の参加で開催**  
 おかげさまで会場参加、オンライン参加、詠草のみの参加を合わせ、過去最高の56名の皆さんをお迎えして開催出来る運びとなりました

第十一回四国近県集會  
 松山新聞第三号(十一月五日号)  
 発行者 新日本歌人協会愛媛支部



## 魅力がいっぱい、多彩なプログラムを用意しています

(Zoom 無料配信 視聴は申し込みが必要です)

### <11/5>

記念講演 ▷13時20分～

戦争と平和の歌—極限のなかの人間の希望について—

講師 津田道明副代表幹事

### 特別報告

- ▷14時50分～ 「歌集 疼き」紹介 大澤博明
- ▷15時～ 「ぶどうの蔓から」奥田文夫さん 代読：土居光也
- ▷15時20分～ 福井隆夫さん(徳島)
- ▷15時30分～ 「恋に生きる—松山の歌人永井ふさこのこと」  
桑名千代子さん(愛媛)

▷16時終了予定 自由時間 \*にきたづ会館に移動

▷18時 懇親会 短歌と映像のライブ朗読(予定)

### <11/6>

\*朝8時にフロントに集合して前日の会場(コムズ)へ出発します。

歌会 ▷9時～11時20分

リアル歌会 1～3班に分散して実施 (Zoomは視聴覚室)

歌会班別名簿等は前日受付時に『集會要領』と共にお渡します。

全体会 ▷11時30分～11時50分 視聴覚室

選歌結果表彰

次期開催県挨拶 高知県 梶田順子さん

閉会挨拶 えひめ新歌人会長 大川史香

た。現地実行委員会一同、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

講演会、現地での歌会が3会場。そして埼玉、東京、千葉、愛知、大阪、高知、愛媛、山口、熊本、宮崎をオンラインで結んで開催する、近県集會では全国初となるZoom歌会もご期待ください。



道後温泉



坊ちゃん団子

# 短歌に魅せられて

書と文 霞香(えひめ新歌人)

私は趣味で、書道をしております。

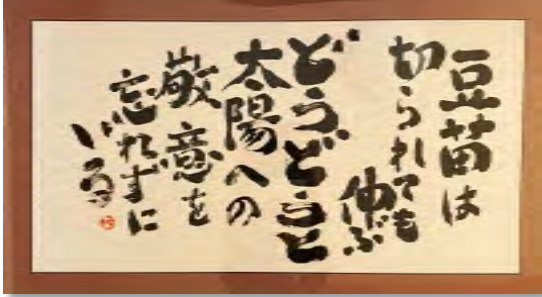
その中に「仮名文字」という学科があります。

そこには常に、五、七、五、七、七で書かれており、その文章を現代の言葉で要約すると、昔の人が一瞬で捉えた、気持ち、風景等を「ハ」音に乗せて歌っていた事を知りました。

俳句は地域柄、割と身近にありましたが、短歌となれば私のイメージとしては「固くて古い」という概念がありきつかけがなければ取り掛かりにくいものでした。

しかし、仮名文字を学ぶに於いてもっと知りたい。と思う中、短歌の会があると知り短歌の世界へ入ってみようと思ったのが、短歌を始めたきっかけです

短歌を始めてみる  
と日常の何気ない風景や人や言葉と向き合う時間が長くなりスマホばかりと向き合う時間が勿体無く感じる様になり、色々な物をもっと目で見て詠んでみた



書 霞香

い。と思う様になりました。そして、記憶のアルバムの様にその時の感情が「ハ」音で思い出し、後に残るものなので今では、とても魅せられています。

書道の作品にも短歌が影響し、詠んだ歌を作品として、筆で書き残す事もできるようになったのは短歌のおかげです。

未熟ですが、古き良き日本語の美しさを、これからも大切に、短歌も書道も精進していきたく思っております。

## ようこそ四国近県集會へ 松山へ 歓迎エッセイ

第十一回

### 中村哲医師と松山のこと

大井田洋子(えひめ新歌人)

アフガンで無念の死をとげた中村哲医師は、玉井金五郎の孫です。玉井金五郎は、旧温泉郡潮見村のミカン農家の三男として生まれました。私が住んでいる姫原の、隣町です。甘酸っぱい爽やかな香りの宮内伊予柑の発祥もこの辺りです。金五郎の長男は、作家・日野葦平(1906〜1960)で『麦と兵隊』をはじめとする兵隊三部作や、自伝的作品とされる『花と竜』に父、金五郎のことを描いています。実際の金五郎は、書かれている人物とは少し違って「こんぞ」と呼ばれる石炭の積み下ろしを命がけで行う人

の生活をよくするための奮闘に力を尽くした人です。(中村医師は、日野葦平の甥です。)

松山市吉藤5丁目の生誕地には、金五郎の功績を伝える石碑があります。「ほたるの里」になっています。我が家から歩いて十分ぐらいの所です。

石碑を訪れた金五郎のファンは「困った人を助ける中村哲医師の精神は、祖父金五郎に通じる」と言っています。

### 伊予緋

大井田洋子

祖母は今の松山空港のそばの「今出(いまじ)」に住んでいました。薄暗い土間に座り込み伊予緋の織機にかかる前の糸を糸車に巻きとり、糸の束を両腕に掛けきれいに8の字に束ねていたのを思い出します。村じゅう藍の匂いがしていました。伊予緋は今出の「鍵谷力ナ」が藁屋根の押竹に、白い縄目の跡があるのにヒントを得て織りあげました。

『鍵谷力ナ』を記念した公園があり祖母の家に行った時にはよく遊んだものでした。

秋の田のかりほの庵の苔をあらみわが衣手は露にぬれつつ  
天智天皇

かけよれば目を輝かす祖母なりき土間で緋の糸紡ぎつつ  
大井田洋子

# 曼珠沙華の歌

土居光也

曼珠沙華の花が好きで毎年曼珠沙華の花が咲く季節になると曼珠沙華の花の歌を詠みます。曼珠沙華の花の歌では  
曼珠沙華ひとむら燃えて秋つよしそこ過ぎてい  
るしづかなる道 木下利玄

曼珠沙華の鋭き<sup>かたち</sup>象夢に見し打ち砕かれて秋逝  
きぬべし 坪野哲久

の歌が好きです。私もかなり曼珠沙華の歌を詠み  
ましたが、中でも比較的気に入っている歌を讀ん  
でください。  
曼珠沙華咲く丘あかく漂泊とは東の間咲きて  
天に還ることならむ 土居光也

# 衛門三郎の伝説八ツ塚

桑名千代子

荏原村に育った私は、この話を子供の頃から親や  
周りのお年寄りから聞き、親しんでいます。当時下  
校は自由で道草をしながら帰ったものですが、恵原  
の八ツ塚の方に回って帰るのが好きでした。八ツ塚  
というのは、こんもりした小さな塚で、衛門三郎の  
亡くなった8人の子どものお墓です。そこは広々と  
して可愛い雰囲気でした。



衛門三郎の伝説 ～四国遍路の開祖～

一 荏原郡の豪  
農衛門三郎は強欲  
で、みすぼらしい身  
なりの僧の持つ鉢  
を叩いて割ってし  
まいます。鉢は八ツ  
に割れ、僧は姿を消  
します。

その後三郎の8  
人の子が次々亡く  
なり、三郎はその僧  
が弘法大師（空海）

だったことを知り、大師に懺悔するため四国巡礼の  
旅に出ます。（略）改心し生まれ変わって人の役に立  
ちたいという願いどおり、河野家に衛門三郎という  
小石を握った男の子が生まれるのです。一  
今は石手寺に、その石が寺宝として祀られていま  
す。つるんとしてきれいな小石です。

伊予の秋石手の寺の香盤に海のいろして立つ煙  
かな (与謝野晶子 新婚旅行に来て詠む)

# 長建寺 大川史香

「永井ふさ子」のお墓参りに行きました。桑名さ  
んの車に便乗です。「永井家の墓」とありましたが、  
ふさ子一人の墓です。桑名さんの用意した竜胆と菊  
を分け、顔を上げたら松山城が真っ直ぐに見えまし  
た。秋晴れでした



長建寺 松山市御幸町1丁目281

「永井ふさ子」は、戦時中疎開した伊東市で母と  
二人で暮らし母を看取ったようです。父親は、早く  
に亡くなりました。茂吉の死は、テレビで知ったと  
何かの本で読みました。

ふさ子は、平成5年6月8日、83歳で亡くなり  
ましたが、墓石には記されていません。それに代わ  
り墓石に一首刻まれていました。

ありし日の如くに杏花さけりみ魂かえらむこの  
春の雨 ふさ子

ふさ子が生前、建立した墓です。

この歌の「み霊」は、先にふさ子を案じながら亡  
くなった父親だと、書いている人がいました。そう  
かも知れません。が、茂吉と交際中詠ったふさ子の  
歌があります。

離り住むその折りふしに恋しけむ露葉となりし  
あんず老木 ふさ子

今も「ふさ」と刻んだ墓に一人でふさ子が待つて  
いるみ魂は・・・推測でしかありません。



## ☆背中の重みは、命の重み

くとべ動物園だより>



### カンガルーの赤ちゃん 「ジャンプ」が元気に群れへ

今春誕生し、お母さんの袋から落ちた

赤ちゃんを保護。人工哺育に成功し、10 月に群れに戻しました。飼育員さんは、4 か月半リュックにカンガルーを背負い母親代わりを務めました。リュックは伸び縮みする巾着形、毎日自宅に連れ帰り、3 時間おきのミルクも欠かさず、いつも一緒、一心同体で暮らし、順調に育ちました。骨折も回復しました。

骨折した足を治してかっこよくジャンプして欲しいと願い名付けた「ジャンプ」会いに来て下さい。

<くとべ動物園> 愛媛県伊予郡砥部町上原町 240

## ☆白壁の町並み「内子」の魅力

ようこそ松山へ さくら京子

国道 5 6 号を車で一約時間、内子を紹介します。大江健三郎さん、『疼き』の尾上正一さんのふるさとは内子町大瀬です。

和ろうそくで栄えた白壁の古い町並みの散歩をおすすめします。内子座、元活動写真館旭館など見どころ満載の坂道です。

「見てよし・食べてよし」春は桜、秋は紅葉。高昌寺に続く道の紅葉は今見頃です。

「道の駅・からり」に、ぶどう・梨・柿など地元の果物、また栗・椎茸など新鮮でおいしいものが豊富です。私は最近、川が二を食べました。是非一度お越しください。



顔のない碑

## 松山と近郊の おすすめスポット②

### ☆「顔の無い碑」

四国中央市(旧・宇摩郡)土居町の八坂神社に表面を削られた碑があります。明治 40 年(1907)の建立です。自然石です。「白露戦役記念碑」の横文字は、風雪にさらされながらも残っていますが、他は一字も読むことは出来ません。その碑は戦争に行った 3 7 名の名前を記し、戦死した 2 名の名前が刻まれていました。各地によくある碑です。

「戦争の非は世界の公論であるのに事実<sup>は</sup>之に反して戦は明日にもまた始まるのである之を如何にすればよいか 他なし世界人類のために忠君愛国の四字を滅すにありと予は思ふ」と続いていました。(明治四十三年三月 安藤正楽題撰書)

明治 43 年秋、全文読めなくしてしまいました。

<安藤正楽>

慶応二年、宇摩郡土居町に生まれ、明治法律学校(明治大学)卒業後県会議員「県会は猿芝居だ」と言い捨てて辞職。非戦論を唱え、芸術を愛し、激しくも自由奔放な 8 6 歳の生涯を送りました。

今は、拓本を基に元の碑の近くに再現しています。尽力を尽くしたのが山上次郎・山上次郎 宇摩郡土居町の歌人(アララギ斎藤茂吉の弟子)・県会議員

宝蔵寺に「あかあかと一本の道とほりたりたまきはる我が命なりけり」の歌碑を建立、歌碑の下に茂吉の爪と頭髪を収めました。永井ふさ子と同じ時期にアララギに属して共に斎藤茂吉の弟子でした。山上次郎の甥の山上蒼がいます。

山上蒼は、えひめ新歌人創立者の一人です。ついでに自作俳句を投函してみても。

身を挺し国に尽くせと王は宣るよ嗚呼人を殺しに我は来つるか  
(徴兵検査に立ち会った際の歌) 安藤正楽  
月涼し腹は得切らぬ狸ども (昭和 20 年 8 月) 安藤正楽

お問い合わせは 大川史香まで メール ooidakazumi@outlook.jp

電話 090-8694-6477